

“つくる”は 夢の出発点

“BUILDING” is the starting point of the dreams.



子どもたちは、“ものづくり”が大好きです。積み木でおうちをつくれます。砂場でトンネルをつくれます。ブロックでビルをつくれます。楽しみながら、ワクワクしながら……。そして、出来上がった時の喜びは心の宝物です。“ものづくり”は、子どもたちの夢を育む出発点なのです。その夢は未来へとつながっています。

建設業は、子どもたちの夢の先にある仕事です。そこで働く人たちは、子どもの頃の夢をそのままに、純粋な心で“ものづくり”に打ち込み、大きな建物や道路をつくれます。工夫して、苦勞もしますが、完成した時の喜びは何物にも替えられません。出来上がった建物や道路は、たくさんの人たちの生活に役立ち、大きな地震や強い風からみんなを守ります。子どもの頃の夢から始まる建設業は地域の安全・安心で快適な暮らしを支え、みんなの笑顔と夢を守り続けます。

“町医者”の仕事

What does your “family doctor” do?

車が走り、人が歩く道路。多くの人が仕事や旅行で利用する鉄道。お父さんが働くビル。子どもたちが通う幼稚園や学校。飲んだり洗ったり、お風呂に使う水道、地域を清潔に保つ下水道etc…。こうした、毎日の生活を送る上で絶対に欠かせない、身近なインフラをつくれます。そして、人が歳をとるように、つくったインフラも老朽化します。古くなったインフラが壊れないように維持・補修するのも建設業です。さらに、自然災害で命が、暮らしが脅かされた時、真っ先に駆け付けて人とまちを守ることも、私たち地域に生きる“町医者”の大事な役割なのです。



東日本大震災では地域建設業が誰よりも早く被災地に駆け付け、道路を使えるようにしました(石巻市雄勝町)



大雪で通行止めになった道路の除雪作業(仙台市青葉区作並地区)。冬に欠かせない除雪も建設業の重要な仕事です。

夢を、かたちに

Building our future together

子どもたちは、なぜ“ものづくり”が好きなのでしょう?それは、家や道路などのインフラが、毎日目にし、実際に使っているととても身近で親しみのある存在だからではないでしょうか。幼い頃の“ものづくり”は子どもたちに夢を与え、創造力と感性を育てます。その夢を追い続け、創造力と感性を磨いてきた技術者たちが、夢をかたちにします。



建設現場で一生命働くおとうさんの姿を見学に来た子ども達。測量機器に興味津々です。



国連世界防災会議のメイン会場となる仙台国際センター展示棟建設工事の現場。